

31H 津田 祥子 32H 西郷 綜真 32H 浦部 未羽
 35H 大森 重寛 35H 瀬戸 優介 36H 谷口 怜楽

■課題

観光施設までの交通の便が悪く、観光客が来るのが困難である。

■解決策

他の自治体の成功例を参考にして以下の解決策を実行する。

- ・コミュニティバスの運行を開始する。
- ・地元の路線バスとコミュニティバス連携。+乗り換えがひと目でわかるサイトの作成

■現状（課題の背景）

<現状1>

首都圏住民に対する石川県での観光に関するアンケート（金沢大学香坂研究室調べ）によると、全体の約30%の人が、「現地での交通手段が不便」と回答している。

<現状2>

現在、のと鉄道の利用者数は年々減少している（図1）。また、同じように、路線バスの利用者数も減少している（図2）。

= **路線が廃止される可能性があり、観光客が来るのがより困難になる。**

<現状3>

能登でもコミュニティバスは運行されているが、観光と結びついてはいない。



石川県における観光客の交通の便を図り、地元の電車とバスの利用者数を増やすことを目的とした。

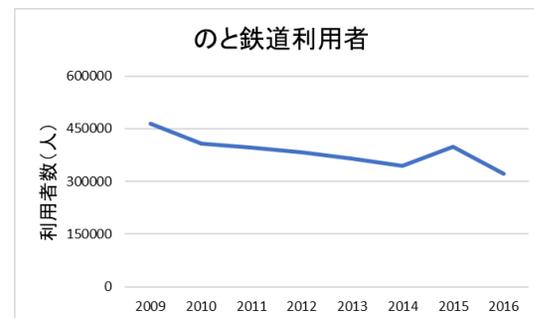


図1

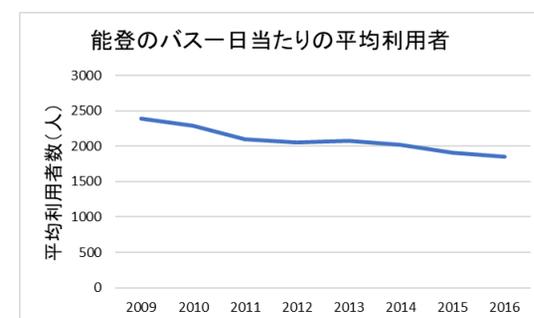


図2

■具体的内容

① コミュニティバスの運行の開始

- ・観光客と地元の人両方が利用できるコミュニティバスを運用する。（観光客が多く利用する時間帯は、観光施設などを、そうではない時間帯は病院やスーパーなどを中心に回るようにする。）
- ・のと鉄道の終着駅である穴水駅にも停留所を設けることで、観光客が現地の移動手段として「のと鉄道」を使えるようにする。

② 地元の路線バスとコミュニティバスの連携

- ・地元の路線バスとの乗り換えを可能にし、観光客だけでなく地元の人々の利便性を図る。
- ・時刻表を調整し、路線バスとコミュニティバスの到着時間と出発時間を合わせる。
- ・乗り換えが一目でわかるサイトを作成する

■効果

①金沢市で、金沢駅を起終点とする「此花ルート」の運行〔平成11年開始〕や、観光地を循環するコミュニティバス「金沢ふらっとバス」の運行〔平成15年開始〕（写真参照）が、観光客の増加につながった。

- コミュニティバスによって観光客の増加が見込める。
- ・穴水駅に停留所を設けることで、のと鉄道の利用者の増加が見込める。
- ・自家用車を持たない地元の高齢者が移動手段として利用できると思われる。



HTTPS://WWW4.GIVY.KANAZAWA.IG.JP/113/YO/taisaku/f1atbus/

②岐阜県高山市の取り組みであるコミュニティバス「のらマイカー」は高齢者が利用しやすいシステムを取り入れるなどして地元と連携し、利用者数が増加した。

- 路線バスからコミュニティバスへの乗り換えが増えるので、路線バスの利用者の増加が見込める。
- ・連携によって、高齢者が、路線バスも移動手段として利用できるようになると思われる。